

# 協和発酵キリン東京リサーチパーク

KYOWA HAKKO KIRIN TOKYO RESEARCH PARK

No. 05-012-2010作成

新築  
研究所

発注者	協和発酵キリン株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	KAJIMA DESIGN		E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
施工	鹿島建設		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

## 棚田状の中庭をもつ市街地型研究所



外観写真

### 新たなシンボルとしての最新鋭研究所

2008年10月協和発酵工業とキリンファーマが合弁し協和発酵キリンが発足、バイオフロンティア研究所敷地内の建物を研究活動を継続しながら段階的に解体し、新生“協和発酵キリン”の創業研究拠点として新たに整備する計画。敷地周辺は戸建住宅が密集した地域であることから、外周部には既存樹を残しながら豊かな緑地を設け、開口部の少ないソリッドなファサードとし、建物ボリュームが小さく低く見えるように配慮している。敷地の高低差を生かした立体的な中庭を中心に、研究棟と共用棟(管理棟)、エントランス棟を配置し、研究所としてのセキュリティを確保すると同時に、豊かなコミュニケーションを生み出す魅力的な空間としている。

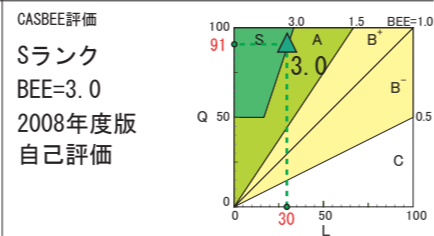


豊かな既存樹木を外周に配したメインアプローチ



4.5mの高低差を棚田状にデザインした中庭

建物データ	
所在地	東京都町田市
竣工年	2010年
敷地面積	34,417㎡
延床面積	22,700㎡
構造	RC造一部S造
階数	地下1階、地上3階、塔屋1階



### 自由度 水平と垂直

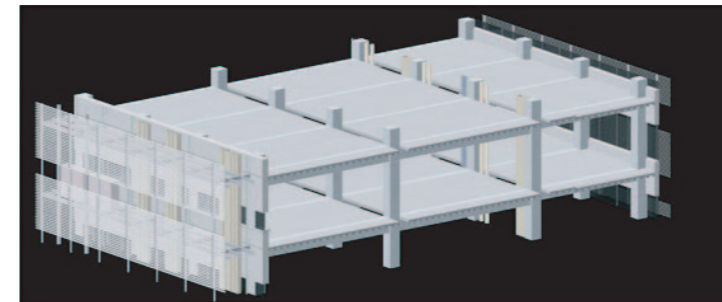
研究棟は100m×35mの広く整形なラボプレート計画。中庭側から外周部メカニカルバルコニーに向け3枚におろし、ソフトからハードへのゾーニングを設定。これらを3層積み重ね、両端を含む4箇所の中央ゾーンに吹抜けを設け上下階を接続。研究エリアの自由なレイアウトを水平・垂直両方向で可能にした。

### 適応力 そして時間

外周ウォールガーダーによる内部桁大梁の省略とFC版による小梁の省略により中央部柱間の設備シャフトと自由な天井内スペースを確保。メカニカルバルコニーとISSシステムも加え、将来に渡る更新性を実現。高耐震構造と転倒防止対策、主要機器の二重化によるバックアップ、エネルギーデータ測定システムを採用。

### 調和と共生

北側に位置する共用棟は2層構成で高さを抑え、既存解体により生まれた敷地外周部を緑のオープンスペースとして確保。東側にはピオトープ空間に隣接するクラブハウスを配置。メカニカルバルコニー上部には太陽光発電パネルを設置。共用棟2階バルコニーには周辺への視線配慮により高めに設定された手摺の前面に、屋上緑化空間を設けている。



構造架構アイソメ



配置図



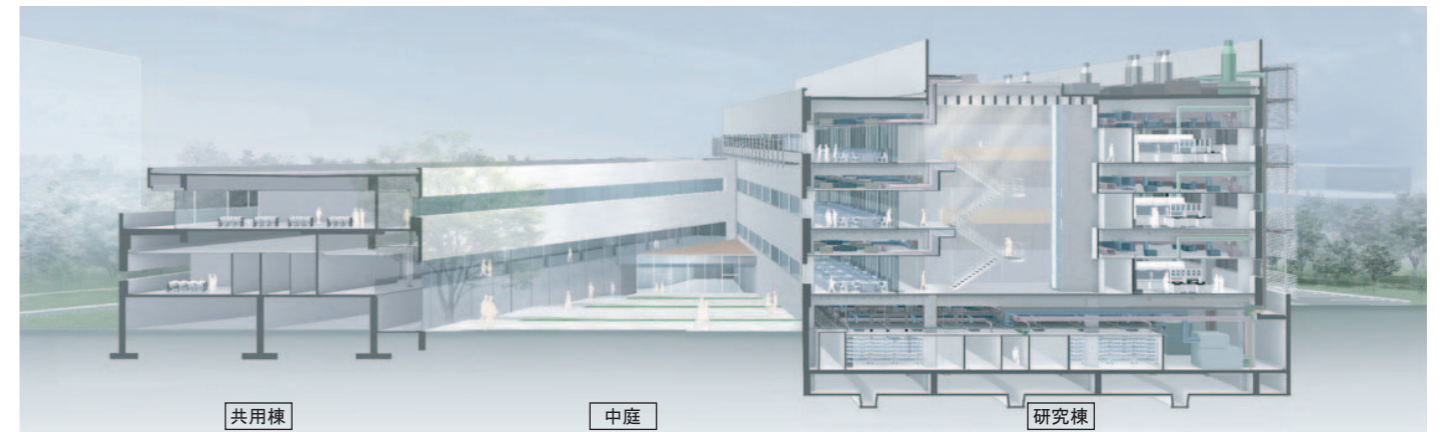
ピオトープとクラブハウス



メカニカルバルコニー



緑化バルコニー



断面パース

### 設計担当者

統括：川田正廣／建築：城内淳、山田隆宏、佐々木歩／構造：平尾康之、後藤仁、土井信／設備：野田仁志、降矢泰英、岩崎洋平、伴賢正  
外構：隈ランドスケープデザイン 川畑了、大久保宏紀

### 主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (高耐震構造、ひび割れ防止コンクリート、設備の信頼性 (BCP対応))
- Q2. 3. 対応性・更新性 (メカニカルバルコニー、設備の更新性 (維持管理面での工夫))
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (外構緑化、建築緑化、地域の郷土種への配慮、野生小動物の生息域の確保、ピオトープ)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (建物配置や形態とまちなみとの調和)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (自然換気、自然採光、地熱利用、太陽光発電、風力発電、バイオエネルギー)
- LR3. 3. 周辺環境への配慮 (騒音、振動、風害、光害抑制)